

マダニの感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」に注意しましょう！

最近、マダニの感染症で亡くなったというニュースが多く見受けられます。そこで、今回は「マダニの感染症」に関するお話です。

◆重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

平成23年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、主な症状は発熱と消化器症状で、重症化し死亡することもあります。

SFTSウイルス自体は、以前から国内に存在していたと考えられますが、平成25年1月に初めての症例が確認され、現在までに全国では23府県で299例（うち60例で死亡）の症例が確認されています（平成29年8月30日現在）。

◆感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染していますが、感染患者の血液、体液との接触感染も報告されています。また、インフルエンザなどのように容易に人から人へ感染して広がるものではないとされています。

◆症状

マダニに咬まれてから6日から2週間程度の潜伏期間を経て、主に原因不明の発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現します。

時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。

◆予防方法

SFTS等マダニが媒介する感染症を予防するためには、マダニに咬まれないようにすることが重要です。特に、マダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意が必要であり、農作業、レジャーや庭仕事など野外で活動する際には、次の点に注意が必要です。

- ・長袖、長ズボンなどを着用して皮膚の露出を避け、ズボンやシャツの裾などを入れ込んでマダニの入り込みを防ぐ。長靴を履くのも効果あり。
- ・屋外活動後は、体や服を叩き、マダニに刺されていないか確認する。
- ・帰宅後は、すぐに入浴して身体をよく洗い付着したダニを落とし、衣服は洗濯する。

【ワンポイント】

マダニは、身体にとりついてすぐに刺すのではなく、体のやわらかい部位をさがして刺す習性があります。脱いだ衣服は放置せずすぐ洗濯するか、ナイロン袋等に入れて口をしぼっておく。吸血中のマダニを見つけた場合は、できるだけ医療機関で処置する。

【ワンポイント】

・マダニ類は体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮内に残ってしまうことがあるため、口器を残さない方法でマダニを除去する必要があります。

・マダニをつぶしてしまうと、そのマダニがもし病原体を持っていた場合に感染するリスクがありますので、マダニはつぶさず慎重に除去する必要があります

◆最後に

秋の行楽シーズンは、外に出歩く機会が増えると思います。備えを十分にして、秋を満喫しましょう！